

江戸時代の調査成果

江戸時代の生活面は地表下 60～100cmの深さに3～4面あり、道路跡や当時の建物の柱を支えていた礎石、あるいは礎石の根固めの石(根石)などのほか、生活に関係する遺構(井戸やカマドなど)がみつかりました。また時代の新しいものとして太平洋戦争時の防空壕も3基あります。遺物では「伊万里」と呼ばれる肥前系磁器や肥前系陶器(唐津)、備前焼、瀬戸・美濃焼、土師器などの大量の土器類のほか、「紀州忍冬酒」と彫りこまれた酒徳利、金属製キセルや土製のおもちゃ(土人形・泥面子)などが出土しています。



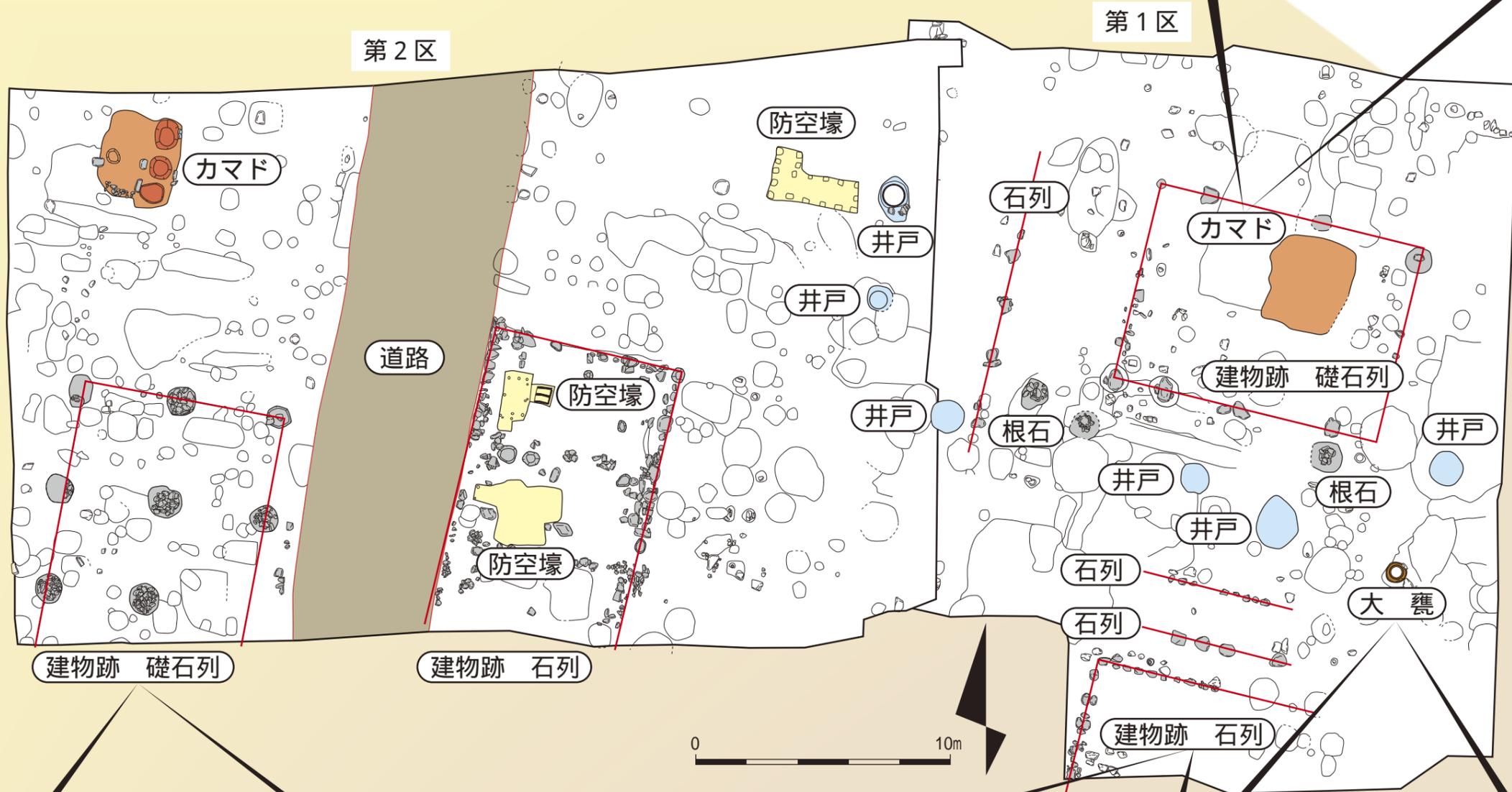
瓦積みカマド



ひぜん 肥前系 陶磁器



どろめんこ 土人形・泥面子など



備前焼大甕の出土状況



建物跡の石列



こんろ ほうらく ふうろ 焜炉・焙烙と風炉



道路西側の礎石建物跡



がんくび 銅製キセル雁首部分・吊り金具・寛永通宝